

MUSEUM GOODS SUMMIT

ミュージアムグッズサミット

企画展関連イベントとして、ミュージアムグッズの作り手同士が、館や地域の境を超えて、知見をシェアできる場所、「ミュージアムグッズサミット」を開催します！展示企画とテーマを連動させ、今回の新型コロナウイルスの影響で生じた、様々なミュージアムショップ、グッズが抱える「距離（ディスタンス）」を参加者と考えていくイベントです。

Vol.1

ミュージアムショップ×博物館のディスタンス 博物館との関係性を問う

2020年9月28日（月）19:00～21:00

ゲスト 山下治子（ミュージアム専門誌「ミューゼ」編集長）

主な著書に、『ミュージアムショップに行こう！そのジャーナリスト的紀行』（ミューゼ2000年）、『博物館学III—博物館情報・メディア論 博物館経営論（新博物館学教科書）』（共著、学文社、2012年）など。

Vol.2

ミュージアムショップ×地域のディスタンス リスペクトってどんな形？

2020年10月15日（木）19:00～21:00

ゲスト 金入健雄

（株式会社金入代表取締役社長、東北スタンダード株式会社代表）
せんだいメディアテーク、八戸ポータルミュージアム「はっち」にてカネイリミュージアムショップを運営。
東北の工芸品や文房具、書籍などのセレクトを通じて東北の魅力を発信し続けている。

参加方法

下記のいずれかの方法でお申し込みください。

《方法1》

下記のQRコードよりフォームに必要事項を記入の上、お申し込みください。



Vol.3

ミュージアムショップ×来館者のディスタンス コロナ禍で見えてきた？

2020年11月6日（金）19:00～21:00

ゲスト 川上和歌子

（認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター 理事・事務局長）
団体のマネジメントから予算管理までの事務局業務を一手に担う。現在は、社会と自然と博物館をつなぐファンディング戦略や次世代を担う後身の育成を推進。

佐藤いず帆

（小樽芸術村 ミュージアムグッズ担当）

主な仕事はミュージアムグッズ販売における数値管理、商品の管理で、企画展に合わせた関連グッズの導入の企画も行う。目標は、小樽芸術村でこれまでに扱った無かったミュージアムグッズを導入し、これまでに以上にお客様に感動をお届けすること。

FACILITATOR
大澤夏美

ミュージアムグッズ愛好家。
博物館経営論の見地からおすすめできるミュージアムグッズを紹介。ミュージアムグッズを通じて博物館の魅力を広める活動に邁進している。



《方法2》

氏名・連絡先メールアドレス・ご所属・参加希望回・興味のある博物館のジャンルを記名の上、下記のアドレスへメールをしてください。

mgs.hokudai@gmail.com

ディスタンス

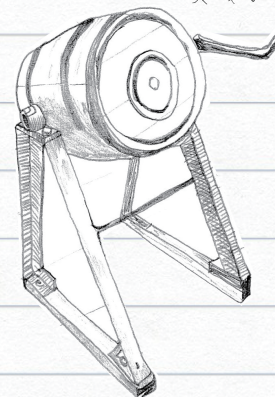
DISTANCE

#学びと距離の物語

バターチャーン

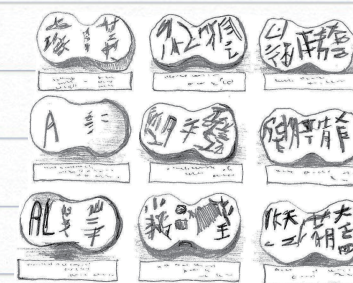
（伝統的なバター製造機）

実践的な学びのこころ。



オオバナノエンレイソウ標本

歴代の教官が手掛けた。



モルタルブリケット

コンクリートの耐久性を100年かけて詰めた。

入場無料

会期 2020年10月6日（火）～2020年10月25日（日）

10:00～17:00（10月12日、19日休館）

会場 北海道大学総合博物館1階 企画展示室

〒060-0810 北海道札幌市北区北10条西8丁目

お問合せ

学芸リカプロ事務局

recurrent_hokudai@let.hokudai.ac.jp

北海道大学 学芸員
リカレント教育プログラム とは…？

QRコードから公式
HPをチェック →



主催：北海道大学大学院文学研究学院学芸員リカレント教育プログラム、北海道大学総合博物館
協力：北海道大学 大学院工学研究院、アイヌ・先住民研究センター、CoSTEP、TERRACE
助成：文化庁 令和2年度大学における文化芸術推進事業



DISTANCE デイスタンス

#学びと距離の物語

No. _____
Date _____

No. _____
Date _____

古くから学びは、空間的・時間的な距離をまたいで受け継がれてきました。テレビやラジオによる遠隔教育はもとより、郵便制度を用いた通信教育や、さらには、距離や時間を飛び越える標本・模型・書籍も、様々な隔たりを越えて学びをつなぐバトンにほかななりません。特に、実学を重視する教育機関としてはじまった北海道大学では、常に、モノを介した実践的な学びが尊重されてきたと言ってよいでしょう。学内に数多く残る標本や実習器具、教育模型や教育掛図等は、多くの学生に受け継がれてきた学びのメディアです。本展では、それらの資料を紹介しつつ、150年近い歴史をもつ北海道大学を舞台に、学びと距離の物語をひもときます。



宮部金吾博士以来、北大で植物学を講じた歴代の教員がつくらせた、オオバノエンレイソウ標本がずらりと勢ぞろい。

北大の記録と記憶からさぐる！ 学びと距離の150年。

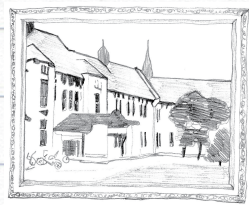


水産学部からは、数十年にわたって学生の実験用に用いられてきた、健気な「長生き」なヤツメウナギの標本がやっています。

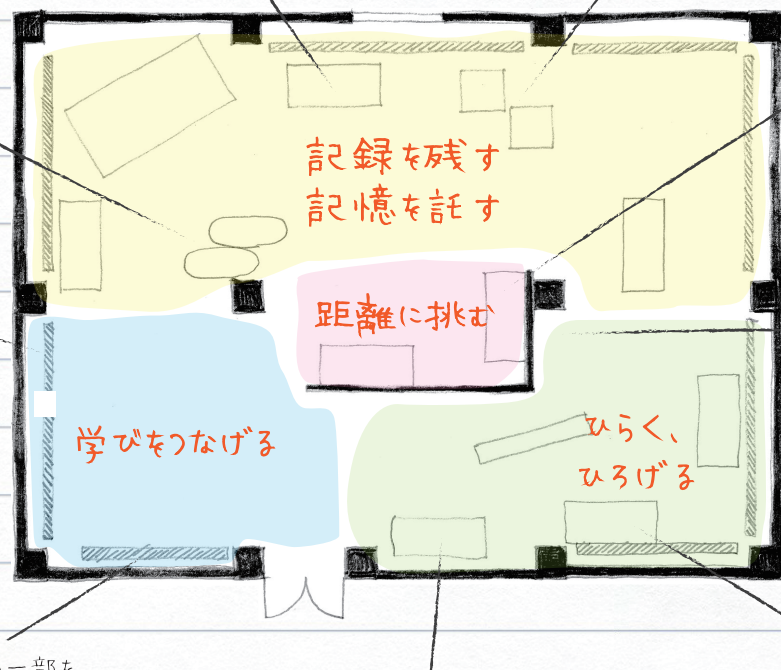


日本の土木工学に大きな足跡を残した廣井勇博士の実験は、100年以上にわたって受け継がれました。

札幌第2農場からは、かわいい牛のレプリカがお目見え！

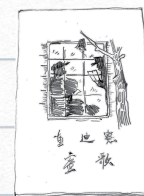


「白亜館」の愛称で親しまれていた旧工学部校舎を描いた作品。作者の小川原脩は、日本の近代美術史にも足跡を残した油彩画家です。

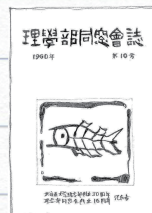


札幌農学校時代の教室図面の一部を今回は原寸で紹介。明治30年代当時の学び舎の雰囲気をおい云えます。

北大による遠隔教育の歴史。へき地教育のためのラジオ講座から、ウェブを用いた配信授業まで。



歌が継がれる寮歌の数々。1930年に録音された音源で「都ぞ弥生」を聴いてみよう！



同窓会や学友会も、学びのバトンをつなぐ原動力に。

学び合いから生まれた企画展

本展は、本学文学研究が主催して実施してきた文化庁助成事業「北海道大学学芸員リカレント教育プログラム」の一環として開催するものです。平成30（2018）年度から開催されてきたプログラムの成果を活かし、参加者が主体となって企画・実施します。

オンラインでつくられた企画展

本展の企画は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら、オンラインミーティングを重ねることで行われました。資料の選定や展示レイアウトから、広報や事業評価まで、参加者が知見を持ち寄り、ウェブ上で練り上げられました。

Let's share with !!



ハッシュタグをつけて情報発信 !!

#ディスタンス #ミュージアムグッズ
#記憶の記録 #ミュージアムグッズサミット
#北海道大学 #ミュージアムショップ